

マイトーク MY TALK

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／藤原尚武）

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成17年8月

第9号

OB会を一層盛り上げよう!!

—先輩、後輩の垣根を越えた楽しみの場—

これからの放研OB会

幹事長 齋藤 剛（十五期）



OB会が正式に発足してから一三年、3年周期の総会も昨年第五回を迎え、五代目の幹事長を仰せつかりました。

OB会の活動は、幹事長の手腕に依存するところが大きいと聞き、その重責に身が引き締まる思いです。

放研OB会は、代々の役員方のご尽力のお陰で文化系サークルのOB会としては他に類を見ない活発な活動実績を挙げてきたといっても過言ではないでしょう。

しかしながら、多くの課題を抱えているのも事実です。

OB会員数は千名近くに上るが、そのうち住所が判明している者は、約六〇〇名と半数をやや上回る程度です。また、会費納入や総会出席などで活動に参加しているのは、二〇〇名強であり、この割合の大小については、他に比較するデータがないので何とも言えませんが、全員参加の趣旨からすれば寂しい数字と言えます。特に、二五期（昭和五二年）以降は極端に少なくなっています。

この年代は、OB会のような存在を必要としないのでしょうか。小・中学校の同窓会、クラス会も少なくなってきたという。しかし、子育てが一段落してこれから自分の人生を歩きたいという時期になると、同じ趣味の仲間が四年間集ったサークルの仲間は貴重な存在のはずです。

事実、我々の先輩の期では、旅行や集まりが頻

繁に開かれています。

一時、幹事会で「会費を長期に渡って滞納している者は、退会処理にしてはどうか」との議論がありました。退会処理はいつでもできるが、一旦名前が消えてしまうと名簿の復活が困難になる。滞納グループもいずれ会の存在に感謝することもあるかもしれない」との結論に達し、現在に至っているという。

この趣旨をご理解戴き少しでも多くの会員の参加をお願いいたします。

さて、OB会の活動ですが、今までのところ、三年毎の総会及び五年毎の周年行事の現役との共同開催、機関誌「マイトーク」の発行、現役への資金援助などが主なものであり、発足以来あまり進展をみたとはいえません。役員が全員ボランティアのため、時間的な余裕がないので止むを得ないとは思いますがもう一工夫できればと思います。

活動会員数増強については、ここ数年、藤原会長を中心とする現役対象のマスコミ講座の開催や、周年行事での協業体制により五十期以降の参加が増えてきたのは心強い次第であり、今後も継続するとともに、二五期以降にも積極的に働きかけていきたい。行事については、既に同好会として、「ゴルフ」と「スキー」がありますが、この他にも、「朗読」、「絵画」、「短歌」、「俳句」、「川柳」、「ビデオ」、「写真」など誰でも気軽に参加できる同好サークルはいかがでしょうか。発表の場としては、OB会ホームページの活用が費用も殆どかからず最適ではと考えています。各コーナーの管理人を引き受けて戴ける方がいらしたら是非お知らせ下さい。

この他、駿河台記念館に集まったの「囲碁」・

「将棋」サークルなども考えられます。

また、OB会会員には、各方面の第一線で活躍している方も多く、それらの方を講師にお招きし、講演会はいかがでしょうか。「個人情報保護対策について」、「高齢化社会をどう生きるか」、「介護問題」、「老後のフィナンシャルプラン」等々、是非会員各位のご協力をお願いするとともに、開催についてのご意見を戴ければ幸いです。

第九回放研十三期同期会報告

因田宏紀（十三期）

今年で九回目の放研十三期同期会が平成十六年十月十一日、十二日東京で開催された。

第一回の熱海に始まり、岐阜長良川。神戸ルミナリエと淡路島。伊豆修繕寺。山口萩・津和野。川越。鎌倉江ノ島。福島会津。そして東京。

十月十一日川鍋、越、前田三幹事の下、北海道から乗安君、九州佐賀から初参加の川瀬君他、十二人が宿舎である市ヶ谷学士会館に集合、八王子の母校へ越、川鍋両君の運転で向かう。中大には、現役の学生がボランティアでキャンパスガイドをしてくれるシステムがあり、大学側の配慮で、放研の委員長山口君が案内してくれた。第一回ホームカミングデーに水上先生の急な要請で訪問したとき、スピーチのみで即帰阪した私にとっては今回が初訪問みたいなものである。広大な敷地に、近代的な校舎、神田駿河台で過ごした私にはあまりの違いに驚くと同時に、私のような花の都東京を目指して地方から上京した者には、駿河台はまさに東京の大学に入学出

来たという大きなインパクトがあったけれど、八王子となると東京の一郊外位にしか受け止められなくて何か不思議な違和感が交差する。川鍋君は青梅から通学しておりかなり離れた郊外からというイメージがあったのを思い出す。当時夜行列車で上京した私には八王子は「母校」というにはびんと来ないものがある。そして現役委員長の誘導で狭い雑然とした汚い放研の部室へ辿り着いてようやく駿河台当時の中大にオーバーラップした。

越君が急遽駿河台を案内してくれた。車で周回を廻っただけだったが水道橋から古本屋街、ニコライ堂を見てようやく私にとっての「母校」を味わった思いがした。

夜の食事会には原君と所用で出席できないと言っていた水上君も駆けつけてくれた。ここで結婚式を挙げたこと、亡くなったご主人との想い出話も聞かせて貰い我が家には無い夫婦の絆の強さを教えられた。夕食後には新宿まで繰り出して、昭和初期の歌謡曲からジャズまで声高らかに懐メロ合戦。ホテルに帰ってからも蛭田、前田両君の部屋では今回も楽しい語らいが延々続いたようである。（今回私はやや飲みすぎで早々とダウン、参加できず）、政治、経済から世界情勢、身近な健康、老後、年金問題と果てしなく議論が続くのが常である。最後まで輪の中心には蛭田君、前田君、柳田君がい



る。スタミナ切れで欠けていくのは男性軍、こんなところにも十三期の特徴が出ているようだ。翌日朝からハトバスで行く東京新名所巡り。お台場ウォーターフロントから六本木ヒルズ、そしてニュー・橋ステーション界隈へ。そして東京駅のステーションホテルで逢い昼食、話題は尽きなかったがここ散会となった。年に一度、同期が元気に集まれるのは何物にも代えがたい。

いよいよ今年十回目は北海道が計画されている

スキークラブ報告

高橋俊次（十二期）

今シーズンはニセコに集結

四年目を迎えた放研スキークラブは〇五シーズンのメインとして三月十三日、十六日、三泊四日北海道・ニセコスキーツアーに取り組んだ。簡単レポートしたい（敬称略）。

白馬・八方尾根で阿部和章（十一期）、具志有幸高橋俊次（十二期）の三人で旗揚げしたスキークラブもその後、伊東祐一郎（十一期）、米山文雄（二期）が加わり、ツアースキー場も車山高原、ブーシユタかやま、白馬・岩岳、そして志賀高原と広がってきた。この間、スキーはしなくても温泉、酒、雪見だけの参加も歓迎の呼びかけに渡辺新（十期）が志賀高原に参加するなど人的な広がり見られた。このような状況の中、〇五シーズンは層の参加の広がりをめざして北海道へ「遠征」することになった。

●卒業以来の再会も、このツアーには上記五、

の常連メンバーに東京から鈴木（旧高橋）暁美（十期）、札幌から渡辺（旧荒武）亮子（十期）、北上尊司（十二期）が新たに加わり、これまでで最も多い参加者、初の女性参加、北海道での開催ということで放研スキーとしてはひとつの画期となった。このうち渡辺とは卒業以来四十年振りの再会という人が多く、それも好きなスキーでの再会ということでも無量であった。年期の入ったスキーヤーである渡辺だが、ここ二、三年は余りやらなかったのが今回のスキーを契機に少し頑張るか、と言っていたし、北上は三十数年振りのスキーに挑戦で道具やウェア類を全て新調して臨んだ。昔とった杵柄、さすが道産子スキーヤー、あつという間にカンを取り戻しガイド役を務めてくれた。鈴木は初心者ながら真摯にスキーと向き合い、スキースクールに入って基本から学んだ。スクール目撃者によるとかなりの進歩でもうすぐ一緒に滑れそうだとのことだ。

伊東、具志、米山は初めての北海道スキー（あろうことか伊東にいたっては北海道の地を初めて踏んだという）でその雄大なロケーションでのスキーを大いに楽しんだようだ。

阿部は技術委員長として今回も助言と指導に当たったが、今回は特に具志の小パラ（小回り）技術の指導にかなり力を入れていた。そして成果も上がっていたようだ。高橋は幹事長として晴天になることだけを祈っていたが、力不足でピーカン一日、まあまあ晴天一日、雪や小雨模様二日という天気だった。

●放研らしい取り組み

期間中、夜はジンギスカンや新鮮な魚をつつきながら、ビール・酒・ワインで大いに盛り上がったのは言うまでもない。昼食にグレンデからわざわざ

バスで出かけ食べた天ざるもうまかった。飲み食いも充実、話も弾んで申し分なかったが、今回は特別に放研らしい取り組みがあった。

それは「放研番組を聴く会」だった。記念事業で作成され、それぞれが購入した現役時代のCDを持ち寄り、みんなで聴こうじゃないかというものだった。思わぬものでいろいろ聴けて面白かったし、懐かしかったし、また刺激的でもあった。あの人、あの声・・・話は際限なく広がった。ほんとにいいものを作ってくれた。この事業に改めて感謝したい。スキークラブもスキーだけではないのです（笑い）。

●みなさんも是非参加して下さい。

スキーをサカナにいろいろ交流し楽しむのが放研スキーです。スキーできなくてもOKです。雪見、宴会だけの参加も歓迎です。

是非のぞきにきて下さい。
来るべき〇六シーズンの企画募集中です。
みんなで楽しくやりましょう！



ゴルフ部通信

河合昭次郎（十一期）

故水上会長及び有志の方々によりゴルフ部開の話がまとまり、OB会幹事会で正式に承認され平成九年十一月吉田填一郎氏をはじめとした十七の方々の尽力により、東筑波CCにて準備コンペ開催。その成功により平成十年十一月、十五期の田守貞氏のホームコース益子CCで第一回OB会コンペを開催「水上杯争奪OB会コンペ」として正にスタートしました。

まもなく、多くの方々の要望及び協力により二回の開催となり、平成十六年十一月「久邇C」のコンペで十三回を数えることと成りました。この間水上会長の逝去（平成十二年九月十八日）と言悲しい出来事もあり大変残念な思いを皆様方々にじたことと思えます。

その後、毎年二月二日に「水上会長を偲ぶコンペ」を新設（於秦野CC・水上会長とOB有志による最後のプレーコース）年三回開催で現在に至りてまいりました。

参加者三十数名を超える大会もあり、練習熱心な方はより上手に、そうでない方はそれなりに、コアーをまとめ、皆さん各々にプレーを楽しんでます。

この様に、ゴルフ部も定着して来ましたが、後の希望として若い（？）方々及び女性の方々（齢に関係なく）の参加を期待しています。

この奥の深いスポーツで心身を鍛えましょう。

追伸

ゴルフ部会長・武居さんの近況

現在、足腰鍛練の為、雨の日は自宅で足踏みを、晴れの日は毎日のように一〜二時間散歩に出かけ、奥さんも、この炎天下心配しながらも感心する程、リハビリに励んでいる日々を過ごしている様子です。

激しい運動（ゴルフ）

は無理としても、OB会の会合等に一日も早く元気な姿を見せて欲しいと期待しています。

リハビリの状況からすると、武居先輩のことですから「ヨウツ」と手を上げながら我々の前に姿を現すのも、そう遠い日ではないと感じました。

ゴルフ部の一員として、一日も早い回復を心よりお祈りし、皆さんにも、「武居・武居さん頑張れ」とエールを送って頂きたいと願っています。

「現役は今」

運営委員長 山口翔太郎

現在の放送研究会は一年生から四年生まで合わせて90人程です。50年以上の長い歴史があるサークルながら、会員の数は未だ衰えることなく熱心に活動に励んでいます。

活動内容は、埼玉県人間地域のコミュニティFM局、FMチャッピー（77.7MHz）でのラジオ番組制作を続けています。FMチャッピーでは、



故水上会長を偲ぶコンペ 秦野CC H17.2.22

水曜日の二十三時から二十四時に各大学が一週交代で放送している「Campus Hot Wave」にて四週に一回、「Central ZOO」という番組を制作しています。一時間の放送時間を六つのコーナーに分けて、コーナーごとに分けられた制作チームが企画から収録・編集までを行っています。また、昨年度から新たに神奈川県横須賀地域のコミュニティFM局、FMブルー湘南（78.5MHz）でも番組制作をすることになりました。FMブルー湘南では、四週に一回、水曜日の十八時から二十分間の番組を制作しています。こちらは二つの制作チームが担当しています。

会員の番組制作に対する熱意に圧されて、2つのラジオ番組を制作していくことになりました。これからもこの制作意欲を損なわないまま、活動に励んでいきたいと思っています。

映像作品については、地域の名所を取材したり、自ら書いた脚本を映像ドラマにしたりと思いの作品を制作しています。創立五十周年記念の際にOB会からいただいたビデオカメラもそれらの撮影において活躍しています。

これら普段の活動の成果は、一年に二回、春と冬に多摩キャンパスで開催している番組発表会でOB会のみならず、他大学の放送研究会、一般の方を招いて、毎回選りすぐりのDJ、ラジオドラマ、映像作品を披露しています。今年の四月十七日に開催した春の番組発表会では、百五十名以上の来場者数を記録しました。これは中大放研における過去の発表会史上最高の来場者数ということです。お越し下さったOBの方々にはこの場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。

また、中央大学広報課と連携して、大学内のサークル紹介や講演会、箱根駅伝といったニュースの取材・制作も行っています。これらは大学内にある電子掲示板や中央大学のホームページで放送されています。白門祭では屋外ステージを設営し、そこで生放送のDJや企画番組を運営しています。今年も十一月三日から六日に催される白門祭に向けての企画内容を計画なので、ぜひお越しください。

他にも、スポーツ大会や旅行などレクリエーションも有志で行い、有意義なサークル活動を送っています。

OB会会長の藤原尚武さん（8期）による就職活動に向けたセミナーも今年で五年目を迎えました。「就職活動に向けた」といっても、その内容は一般常識や時事問題など「就職後も役立つであろう知識」です。就職活動を控えた三年生だけでなく、まだ大学に入学したばかりの一年生も交えて、気楽に、そして真面目に取り組んでいます。藤原さんのセミナーに以前参加していた先輩の体験談によると「セミナーで学んだ内容がまさに就職試験に出題された」ということで、非常に心強く感じています。藤原さんには月に二度、足繁く通っていただき、大変感謝しています。

七月十二日のセミナーでは有松幹夫さん（11期）初め二人のOBにもご出席頂き、当時の放研の様子といった貴重なお話も伺うことができ、こうしたOBと現役との交流は、放送研究会という長い伝統があるサークルならではのあり、今後もぜひ続けていきたいと思っています。

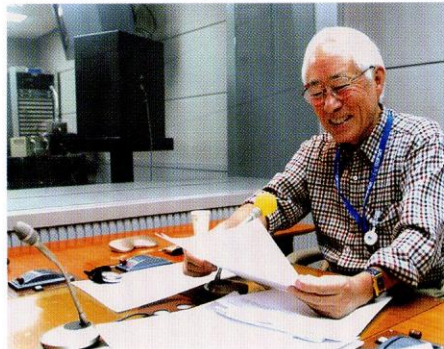
これを読まれたOBの皆様にもぜひ足を運んでいただければ光栄です。

「マイクに再び…」

斉藤安弘 (十二期)

今、深夜から早朝にかけてのラジオ番組を楽しむオトナ、特に中高年令層が増えており、ラジオに再び目が向けられている。昭和四十年代、テレビ全盛の頃に深夜放送を起ち上げ、受験生を中心とする若者達の間には一大ブームを盛り上げて社会現象化させたのは我々民放であったが、時流と共に次第に中高年令層の聴取者の心をつかんで行ったのがNHKの「ラジオ深夜便」である。その当面我々にとっての強力なライバルである「ラジオ深夜便」からの出演の依頼は正直云って驚きであったが、同時に大いに興味が湧いた。出演したのは三月二十日(日)「ラジオ深夜便」スペシャル(NHK 80周年・深夜便15周年記念特番)。午後十時三十分、巨大な建物の入口に迷いながらラジオセンターに到着、控室で当夜ニュースを担当して居られた藤原会長にお会いした。流石に現役のアナウンサーの顔をしていらっしやる。この番組にゲストとして招かれたのは、小生の他に愛川欽也氏と落合恵子氏。欽也さんとは色々な機会にお会いしていたがレモンちゃんとは何十年振りかの再会であった。生放送のスタジオに入ったのは午前零時前。歳月の経過を感じさせる小じままりしたスタジオで、小窓越しに隣りのブースが見える。当日はNHK総合TVとサイマルで放送されるためスタジオ内にリモートコントロールのTVカメラが二台設置されている。番組はアンカーマンの明石勇さんと宇田川清江さんのゆつたりとしたアナウンスで始まった。宇田川さんは御年七十才との

ことであるが肌はツヤツヤ実に若々しい。一方、明石さんは三十九年入局で小生と同期、慶応在学中はライトミュージックソサエティでサククスを吹いておられたとの事で一層親近感が湧いた。番組は我々ゲスト三人とアンカーマンによる深夜放送の今昔を中心に淡々と進んでいたが、突然TVの放送が中断した。マラッカ海峡で海賊に襲われ行方がわからなかったタグボート「偉駄天」の乗組員が釈放されたというニュースが入ったためだ。ラジオの方は速報が入ったもののそのまま進行したが、このハプニングのため終了予定の午前一時が一時四十分と伸びてしまった。しかし、今回の「ラジオ深夜便」出演の反響と効果は実に大きく、放送終了後「深夜便」の聴取者からも「エバーグリーン」の聴取者からも沢山のメールや手紙を頂戴し、今更ながらオトナのラジオへの期待を実感した次第で、パーソナリティとして大いに励みになった貴重な体験となった。



水谷勝さんを偲んで…

原 信子 (十四期)

その悲しい知らせを受けたのは、彼が亡くなったという三日後の今年一月二十八日の事でした。生

涯独身だった彼からは、時々電話があり受話器のこうでチビリ、チビリやっている彼を相手に、時のたつのも忘れてとりとめもなく話し込んだものでした。前の年の十二月「今、病院に居るんだよ大丈夫だから。退院したら又会おうや。」それが後の言葉になる事など想像すら出来ることではありませんでした。放研で始めて出会ったこと、白門と一緒に仕事をしたこと、新宿で飲んで騒いで夜けまで語り合ったこと等々：私の青春の思い出のページが一瞬の間に引きちぎられてしまった思いました。あれからもう半年、初めてのお盆も終わりました。十四期の集まりに姿を見る事はもう永久ありませんが、彼に対する思いは皆同じだと思います。どうぞ水谷さん、安らかにお休み下さい。そして、みんなが集まった時には例の独特の口調で二おっしゃって下さい。

浅見一策 (十四期)

放研を卒業と同時に演劇の世界に入り舞台、一場一筋で四十年頑張っていたのに残念でした。回の集まりで飲んだ時等、舞台演出、出演俳優の個とか、我々の伺い知れない所の話し等、水谷節の声をもう聞く事は出来ない。お通夜の帰り道にい出されて来たのは現役の頃一緒に行った、有楽のビデオホール(ニッポン放送の隣りだったと思っでのミッド・ナイトジャズコンサートでのジャムセッションだった。オスカーピーターソン・トリオ松本英彦・白木秀雄等の熱演を聞いて明け方の四頃、わかった様なわからない様なうん蓄を喋りながら、皇居のお濠り端を駿河台の会室に向かって歩た事が昨日の様に浮んで来た。 合掌

平成16年7月開催第5回中央大学放送研究会OB会総会

(於：H16.7.17品川プリンスホテル)

放研OB会総会・忘備録

佐久間良平（八期）

平成十六年七月十七日、放研OB会総会が品川プリンスホテル二十二階で一五時三〇分から開催された。当日、小生は一四時過ぎにホテル2Fのコーヒールاونジ・マウナケア前で林と待ち合わせて奥の方に腰を下ろしコーヒートとケーキで一服した。ほどなく黒沢が着席。

入り口近くには何時の間にか、佐藤明と皆川女史が座っていたので手招きをし五人がテーブルを一つにした。そこへ斎藤先輩が来て一緒に22Fの会場に向かったのである。

十三期の柳田美根子副幹事長の開会の挨拶に続いて藤原会長挨拶では、早々と『役員改選で、もう一期やることに・・・』と。十二期の砂岡幹事長が経過報告、その中で『二四期から四〇期まで（何故かベビーブーマー・ジュニア世代が多いように思います）は本日誰も出席していません』・会計報告。会計監査人の十期の渡辺新也が、今期七〇八万の収支の監査が適性と報告した。役員改選は名簿の通り決定した。一五時五〇分、総会はすらすらと二〇分程で終了した。炎天下の都心、喉も乾いている、懇親会の方が気になって・・・と勝手に解釈した。

懇親会は一六時〇五分に司会の現役三

年生の田中萌嬢が会長、加賀美放研会長、来賓の三宅邦彦氏に挨拶をさせた。いずれも五〇周年記念の時は挨拶が長く今回も、もしかしたらと懸念したがギリギリの長さで無事終了し乾杯した。

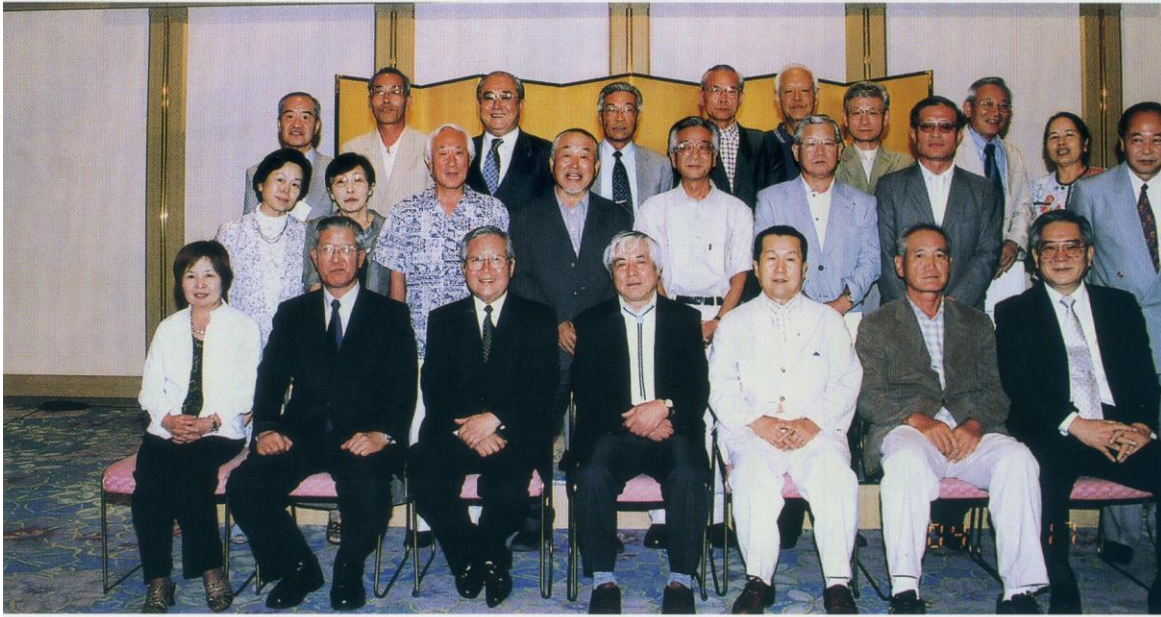
土・日・海の日と三連休が影響したのか、常連の欠席が目立った。

和（寿司／そば）・洋（チーズ／ローストビーフ）・中（焼売／焼きそば）・野菜・フルーツ・そして二種類のケーキ！。アサヒスーパードライ・ウロン・水割り etc.

二時間の談笑・飲食タイムが終了し、「惜別の歌」の合唱となったが、例の如くトラブルで間違って「応援歌」が鳴りだしやり直しとなった。

十三期の前田紘子新副会長が一本締め「パチッ」で一八時過ぎに再会を約し解散となった。

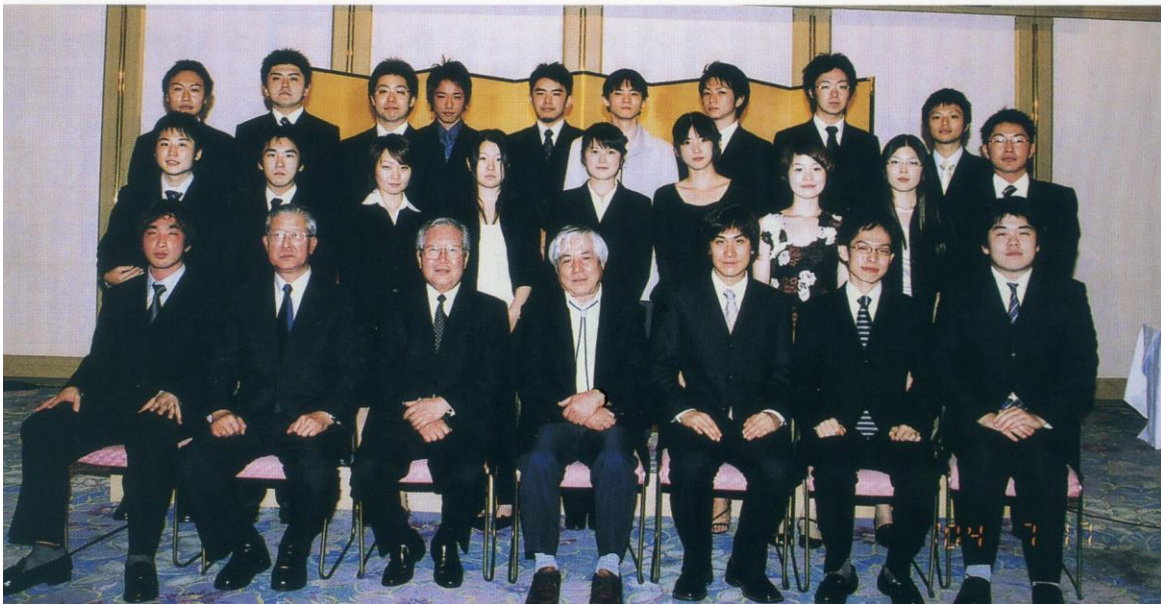




10~12期



13期~



ホワイトボード

【永久保存テープのCD化】

放研創立五十周年記念事業の一環として、永久保存テープのCD化を行いました。前号の「マイトーク」で、このCDのコピーを頒布（一枚千円）する旨お知らせしたところ、五十名近くの方々から希望がありました。ご希望戴いた皆様にはすでに、発送も終わり、代金も頂戴しております。

「現役時代を思い出して、感無量です。」

「孫と一緒に聞いてみます。」

「恥ずかしいので一人でそっと聞きます。」

「半世紀近く経つのに音質の良いのにびっくりしました。」 等々の声が寄せられました。

【再頒布】

前回のマイトークを見落とした方や改めて聞いてみたいという方のために、再度、頒布希望を募ることにしました。

保存CDの頒布要領

- 1.頒布価格 1枚1,000円
(送料も含む)
- 2.申込み先
〒146-0085
東京都大田区久が原1-4-14
砂岡茂明 (副会長)
FAX 03-3753-0200
sunasan@xpost.plala.or.jp

「はがき」かemailに、ご希望のCDNo. CDタイトルを書いてお送り下さい。代金は、CD到着後振込んで下さい。

【利益を現役に寄付】

なお、CDコピー作成は現役をお願いした関係で、複写経費が大幅に節約できました。今回皆様から頂戴した頒布代から生CD代、郵送費を差し引いた差額十万円を百二十五周年募金を通じて現役に寄付することとしました。

【OB会費納入のお願い】

ご連絡が遅れましたが、第五期分（平成十六年度〜平成十八年度）のOB会費の納入を御願致します。会費は年間二千元として三ヶ月分の六千円を一括してご納入頂きます。

今回ご送付いたしましたマイトークに同封しました専用のOB会振込み用紙をご使用下さい。宜しく御願致します。

【マイトーク原稿募集】

OB会機関紙「マイトーク」を発行して今回で九号となりました。

会員の皆様から寄せて頂く原稿や情報により内容を充実させて戴いております。

これからも皆様の原稿や情報をメインに構成してゆきたいと思っております。

「マイトーク」の各コーナーに対する皆様の原稿や情報を募集致しますので奮ってご応募下さい。

訃報

演劇、舞台の世界で活躍中、昨年末より体調を崩して入院、十四期の水谷 勝さんが平成十七年一月永眠されました。御冥福をお祈り申し上げます。(OB会より、お香典をお供えいたしました)

中央大学放送研究会OB会第5期役員名簿

役職	卒業記	氏名
顧問		加賀美 鐵雄
会長	8期	藤原 尚武
副会長	12期	砂岡 茂明
副会長	13期	前田 紘子
会計監査人	10期	渡辺 新也
会計監査人	11期	有松 幹夫
幹事長	15期	齋藤 剛
副幹事長	13期	柳田 美根子
副幹事長	15期	堤 美沙
広報	14期	荒井 藤樹
会計	41期	山本 洋右
ゴルフ部会長	4期	榛葉 肇
ゴルフ部幹事	11期	河合 昭次郎
ゴルフ部幹事	12期	若尾 英樹

編集後記

盆も過ぎ、皆様地元でそれぞれの暑い今を過ごされておいでのことと存じます。

表紙の頁にせん越ながら書かせて頂きましたが、私今年の七月のOB会総会にて第五期のOB会幹事長として承認頂き、今回のこのマイトークを初めて担当、発刊するに当たり改めて身の引き締まる思いでございました。

皆様より原稿の提出をしていただけたか、頁を確保出来るか、それだけが心配でしたが砂岡前任幹事長にご助言とご協力頂き、そして皆様より送っていただいた原稿、写真にて内容を整えることができました。

皆様にお読みいただける内容に仕上がったものと確信いたします。

マイトークを読んでいただき、一人でも多くの放研OBの方々がOB会に入会され仲間を輪を広げて行こうではありませんか。

参加して良かった。会えてよかった、楽しかったそんな会に行きたいと思えます。

これからも皆様宜しく御願致します。

齋藤 剛 (十五期)